

## はじめに

55 回目となる Inter BEE 2019 は、例年と同じく 11 月 13 日 (水) ~ 15 日 (金) の 3 日間、千葉市・幕張メッセで開催される。

メディア総合イベントを目指し、2017 年より 3 ケ年計画で「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう」をテーマにした取り組みが行われて来ている。3 ケ年計画の最終年として Inter BEE 2019 では、4K・8K 放送の実用化がスタートした状況の中で、「東京オリンピック・パラリンピック」の開催を 1 年後に控え、テーマを「拡張するメディア体験」として、次の世代に向けた目標を掲げたコンベンションが企画されている。

特に今年は、来年のオリンピック放送に向けて、「スポーツ」をメインテーマとして、基調講演や展示などが行われる。

昨年の Inter BEE には、28 カ国・地域から過去最多となる 40,839 名の業界関係者が参加し、その内、海外からの参加者が 771 人となっていた。機器展示会場においては、1,152 社 (海外出展社数 35 カ国より 646 社) が出展し、放送機器のプロフェッショナルを対象とした国際コンベンションとして、従来にも増して期待が高まっている。

特に、2020 年東京で開催されるオリンピックに向けて、世界をリードしてきた日本の放送および通信事業者や機器メーカーが、将来に向けてどのような方向を目指しているのかなど、世界のプロフェッショナルからも注目されるコンベンションとなっている。

## Inter BEE 2019 への期待

放送業界を含め、メディア産業全体に広がる最新のコンテンツや技術状況を把握する機会となっている Inter BEE は、4 月に米国 (ラスベガス) で開催される NAB Show、9 月に欧州 (オランダ・アムステルダム) で開催される IBC と並んで、これからの動向を知る重要なコンベンションと位置付けられている。

4 月に開催された NAB Show 2019 は、9 万人を超える参加者と、1,600 社を超える出展企業によるコンファレンスと展示会

となった。

ゴードン・スミス会長は、開会式で次のような基調演説を行っている。「今年のテーマは、“Every Story Starts Here” (全てのストーリーは、此处から始まる) である。NAB Show では、メディアおよびエンターテインメント業界の革新的なストーリーを伝える展示が行われる。そこには、人工知能、クラウドコンピューティング、次世代ワイヤレス、e スポーツ、コネクテッドカーなどの次世代テクノロジーが集中して展開されていることに注目して欲しい。」と述べている

NAB は、次世代テレビとして電波とネットを融合させる方式として ATSC3.0 の展開に注力しており、テレビの受信機だけでなく、携帯電話やタブレットでも直接受信できるシステムの普及を目指している。

スマートフォンなど携帯端末を供給するメーカーが、放送を受信するチップの導入に積極的でないことから、強い働きかけをしている状況にある。また、5G やクラウドなどを含めた、未来のメディアやエンターテインメントの進化に向けた機器やシステムの展示が行われている。一方で NAB は、多様性を増して来ているメディアテクノロジーの進化の中においても、コミュニティーにおけるローカル放送の重要性を強調する取り組みを進めている。

基調演説の最後には、「放送局は、最も信頼できるローカルニュース、人命救助情報、最高のエンターテインメントをリスナーと視聴者に提供し続けるために戦うことをいとわない。」と締めくくった

NAB 会長ゴードン・スミス氏は、Inter BEE 2019 のオープニングに続く基調講演で、「放送イノベーションを活用して最高の放送コンテンツを視聴者に提供」をテーマとして講演される。ATSC3.0 を含め、米国の放送事情について講演されるものと期待される。

一方欧州を中心とする IBC 2019 は、56,000 人を超える参加者、1,700 社を超える出展社を迎えて開催された。IBC では、今までも技術の進化を積極的に捉えた取り組みを挑戦的に進められて来ている。イギリス BBC などは、従来の放送ス

テムに捉われない、新しい次元のメディアの方向性を示す議論や展示を、IBC でも積極的に進めてきている。そこでは、IP システムやクラウド、AI、ソフトウェアなどの進化に伴う、新しいメディアやエンターテインメントの未来を描いていると言える。

Inter BEE では、4K・8K 放送の実用化がオリンピックを契機として大きく展開する状況にある。新しいメディアの展開と共に、4K・8K の技術を活かした新しい分野への取り組みも進められている。

一方、インターネットによる動画配信の技術の進化によるビジネス展開が急速に進んできており、インターネットによる放送の同時配信など、既存のメディアの変革を促す取り組みも始まろうとしている。メディアのダイバーシティが加速される中で、将来のメディアの姿を描き出す議論が急速に展開されることを期待している。

また、昨年に引き続き同時開催される「デジタルコンテンツ EXPO2019」では、先端デジタルコンテンツ技術をテーマとして、大学や研究機関の若い世代を中心にエマージング・テクノロジーへの挑戦が進められており、5G の実用化を含めて、次世代のメディアに進化をもたらす新しい芽を、もたらしてくれるものと期待されている。

## INTER BEE FORUM の概要

Inter BEE では、機器展示と共に基調講演を始め多くの講演やパネル討論、プレゼンテーションが、幕張メッセ国際会議場で行われる。

此处では、3 日間にわたる主な基調講演について紹介する。

(1) : 初日 (11/13) オープニングと共に行われる基調講演は、次の方々により行われる。

○ゴードン・スミス 氏 (全米放送事業者協会 (NAB) 会長) 「放送イノベーションを活用して最高の放送コンテンツを視聴者に提供」

○鈴木 大地 氏 (スポーツ庁長官) 「他産業との融合によるスポーツの未来」

○緒方 一貴 氏 (日本放送協会 (NHK) 放送技術局長) 「Beyond 2020 放送技術

の進化は止まらない]

○ソチリス・サラモーリス氏(オリンピック放送機構(OBS)最高技術責任者(CTO))  
「Tokyo2020の映像制作(仮)」

(2):2日目(11/14)の基調講演では、次のテーマでの講演が行われる。

「放送・通信連携による放送コンテンツ振興政策の最新動向」

○三島 由佳氏(総務省情報流通行政局 情報通信作品振興課 課長)

○伊藤 正史氏(一般社団法人IPTVフォーラム)「一般社団法人IPTVフォーラムにおける技術標準化と会員社の取り組み」

○武智 秀氏(NHKエンジニアリングシステム)「海外の放送・通信連携サービス動向」

○村上 圭子氏(日本放送協会放送文化研究所)「社会から見た今後の放送の方向性」

○村井 純氏(一般社団法人IPTVフォーラム代表理事)「放送とネット連携の現状と今後の動向」

(3):3日目(11/15)は、次のテーマでプレゼンテーション及び事例報告が行われる。

「IP化する放送技術と導入事例」

#### ★プレゼンテーション

○伊藤 正史氏(株式会社フジテレビジョン)

#### ★事例報告

○大崎 雅典氏(株式会社テレビ東京)「テレ東音楽祭2019におけるIPリモートプロダクションの取り組み」

○工藤 紀之氏(NTTぷらら)「ひかりTVのIP技術とそのオペレーション」

○近藤 信輝氏(株式会社AbemaTV)「AbemaTVの成長とIPプロダクション」

○菊谷 康行氏(北海道文化放送)「(仮)回線センターのIP化対応」

○川崎 淳氏(株式会社共同テレビジョン)「(仮)4K/IP中継車づくりと運用経験から」

#### ★モデレーター

○吉井 勇氏(株式会社ニューメディア出版 局長)

この他の国際会議場で行われる基調講演

1:INTER BEE CONNECTED 基調講演(11/13)「スポーツ中継のフィロソフィー~TOKYO 2020に向けて」

2:INTER BEE IGNITION 基調講演

(11/14) 中村 伊知哉氏(慶応義塾大学大学院)「映像の外側で、すべてがメディア化する時代のアクティビスト達」

3:INTER BEE CREATIVE 基調講演(11/15) 行定 勲氏(映画監督)「日本の映像業界の未来に向けて」

※この他にも多くのセッションが開催される。コンファレンスの詳細は、以下のURLを参照。

[https://reg.jesa.or.jp/?act=Conferences&event\\_id=11](https://reg.jesa.or.jp/?act=Conferences&event_id=11)

### DCEXPO(デジタルコンテンツEXPO 2019)の概要

デジタルコンテンツEXPOは、人間の五感にインターフェイスを持った先端デジタルコンテンツ技術をテーマとして研究発表するイベントとして開催され、コンテンツ技術が切り拓く未来を実感する国際イベントとして、Inter BEEとの連携により同時開催されるイベントである。

11月13日には、国際会議場において「DCEXPO」トークセッション、特別セミナー、基調講演が行われる。

○ASIAGRAPH2019 創賞・匠賞・トークセッション「アートとサイエンスが創出する新たなコスモス」

○SIGGRAPH 招聘特別セミナー

「人に寄り添うCG/VFXによる映像表現」

○基調講演

「神経美学と対話するデジタルコンテンツの未来」~メディアコミュニケーションにおける新たな枠組みと可能性を展望する~

※DCEXPO2019のコンファレンスの詳細は以下のURLを参照。

<https://www.dcexpo.jp/conference>

### おわりに

1964年東京オリンピックから半世紀を越え、来年2020年には再び東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。オリンピックでは、世界のアスリートたちにより白熱の競技が展開される。

同時に、競技場の観客と共に、テレビやラジオを始め多様なメディアを通して、アスリートたちの姿と共に熱気や興奮が世界

ご案内状

Professional Audio  
ブロードキャスト

Video Expression  
Professional Lighting  
映像表現/ブロードキャスト

WHAT WILL YOU DO NEXT?  
新たなメディアの可能性を世界に広げる

Video Production  
Broadcast Equipment  
映像制作/放送設備

ICT / Cross-media  
ICT/クロスメディア

Broadmedia & Entertainment 55  
Inter BEE 2019

11.13 15 幕張メッセ

11月13日(水) 10:00 ▶ 17:30 (#19:30)  
11月14日(木) 10:00 ▶ 17:30 (#19:50)  
11月15日(金) 10:00 ▶ 17:00 (#17:10)

主催: JEITA 一般社団法人電子情報技術産業協会

完全Web登録制  
入場事前登録のうえご来場ください。  
www.inter-bee.com

今すぐ登録!

中に伝えられ、地球上の人々が一つになる平和な状況を作り出してくれる。

このような環境を作り出すことが出来るオリンピック放送においては、それまでに積み重ねられてきた研究の成果が活かされ、次世代に向けた進化をもたらして来ている。

1964年のオリンピックの年に、NHKでのハイビジョンの研究が始まったと記録されている。テレビは、デジタル化と共にハイビジョンから4K・8Kへと進化し、インターネットによる配信へと広がる中で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えることになる。大切なことは、このオリンピックの後に、放送事業を始めとして多様なメディアの広がりの中で、人々に寄り添うメディアを創出するためにも、次のステップが目指すべき目標を掲げることである。

このInter BEE 2019のコンファレンスや機器展示を通して、しっかりとした議論が行われ、次の世代に向けて国際的な情報発信能力を高め、関連する国際機関との連携を進めて行くことが大切であると言える。

Inter BEE 2019の詳細と最新情報は、以下のWebページを参照。

<https://www.inter-bee.com/ja/>

Hideichi Tamegaya  
Media Technology Consultant  
Former Professor, Graduate school of  
Joshibi University of Art and Design